

アメリカン・コッカー・スパニエルの改正部分

改 正	現 行
<p><u>(削除)</u></p> <p>■重要な比率 胸骨から太腿の後ろまでの長さはキ甲の最高点から地面までの長さより僅かに長い。ボディは真っ直ぐで自由な歩様を可能にするだけの十分な長さでなければならず、決して長く見えたり、低く見えたりしてはならない。</p> <p>■頭部 □頭蓋部 スカル 過度にならない程度の丸みがあり、<u>平らな傾向</u>はない。眉は明瞭である。眼下の彫りはすっきりしている。</p> <p>□顔部 鼻 マズル及び前顔部のバランスを保つのに十分な大きさで、良く発達した鼻孔は<u>スポーティング・ドッグ</u>の典型である。 …<u>眼縁の色と調和が取れている</u>。</p> <p><u>マズル</u> 幅広く、厚みがある。正しいバランスは、ストップから鼻先までの長さがストップから頭頂を越えて<u>スカルの付け根</u>までの長さの半分である。</p> <p>■頸 鼻が地面に容易に達する十分な長さがあり、筋肉質で、<u>弛んだスローティネス</u>はない。肩から力強く持ち上がり、僅かにアーチし、頭部に向かうにしたがい先細っている。</p> <p>■ボディ □背 頑丈で、肩から断尾された<u>尾の付け根</u>に向かって均等かつ僅かに傾斜している。</p> <p>■四肢 □前軀 肩 肩はすっきりして、突出することなく傾斜するこ</p>	<p>■沿革</p> <p>■重要な比率 体長は体高よりわずかに長い。ボディは、真っ直ぐで自由な歩様を可能にするだけの十分な長さを有さなければならず、決して長く見えたり、低く見えたりしてはならない。</p> <p>■頭部 □頭蓋部 スカル 過度にならない程度の丸みがあり、<u>平坦</u>ではない。眉は<u>たいへん</u>明瞭である。眼下の彫りはすっきりしている。</p> <p>□顔部 鼻 マズル及び前顔部のバランスを保つのに十分な大きさで、よく発達した鼻孔は<u>鳥獵犬種</u>の典型である。 …<u>鼻の色は眼縁の色と同色</u>である。</p> <p><u>マズル</u> 幅広く、厚みがある。正確なバランスは、ストップから鼻先までの距離が、ストップから頭頂をこえ、<u>オクシパット</u>までの長さの半分である。</p> <p>■頸 鼻が地面に容易に達する十分な長さがあり、筋肉質で、<u>たるんでいない</u>。肩から力強く持ち上がり、わずかにアーチし頭部に向かうにしたがって先細りになる。</p> <p>■ボディ □背 力強く、肩から断尾された<u>尾</u>に向かって均等にわずかに傾斜している。</p> <p>■四肢 □前肢 肩</p>

とで、キ甲の先端部の角度を肋が幅広く張ることができるようにしている。

□後軀

飛節

頑丈で、十分な低さである。後脚のデュークローは除去しても良い。

### ■被毛

□毛

頭部の毛は短く、きめ細かい。ボディの毛は中位の長さで、保護するための十分な下毛がある。耳、胸、腹及び脚には十分な飾り毛があるが、コッカー・スパニエル本来のラインや動きを隠したり、適度な被毛のスポーティング・ドッグとしての外貌や機能に影響を与えてはならない。質感が最も重要である。被毛はシルキーで、真っ直ぐまたは僅かにウェーブがかかっており、手入れが容易である。過度な量の被毛やカーリーな被毛、または綿のような質感の被毛には厳しいペナルティーが課される。背中の被毛にバリカンを使用することは望ましくない。犬の本来の輪郭を高めるためのトリミングはできるだけ自然に見えるように施されるべきである。

### ■サイズ

理想的な体高は成犬の牝で 15 インチ (38.1cm)、成犬の牝で 14 インチ (35.6cm) である。体高はこれより 0.5 インチ (1.25cm) 上下しても良い。体高が牝で 15.5 インチ (39.4cm)、牝で 14.5 インチ (36.8cm) を上回る場合は失格となる。成犬の牝で体高が 14.5 インチ (36.8cm)、成犬の牝で 13.5 インチ (34.3cm) を下回る場合もペナルティーが課される。体高は、肩甲骨の頂点から地面に垂直に降りた線によって決まる。自然に立っている時の前脚と後脚は測定線に対し平行である。

### ■失格

- ・体 高：牝 15.5 インチ (39.4cm) 超。
- 牝 14.5 インチ (36.8cm) 超。
- ・目：ブルー、ブルー・マーブル、ブルー・フレック。

肩はすっきりし、隆起せずに傾斜し、キ甲の上部は肋が幅広く張ることを可能にする角度である。

□後軀

飛節

頑丈で低い。後脚のデュークローは取り除いてもよい。

### ■被毛

□毛

頭部は短く、美しく、ボディは中位の長さで、保護するための十分な下毛がある。耳、胸、腹及び脚に十分な飾り毛があるが、コッカー・スパニエルの本来の線や動き、外見、及び機能を隠すほど過剰ではない。過度な被毛をもつ鳥獵犬種としての毛質は最も重要である。被毛は絹糸状で、真っ直ぐか又はわずかにウェーブがかかっており、手入れは容易である。過剰に被毛があつたり、カーリーであつたり、綿状の毛質である場合には厳しいペナルティーが課せられる。背中の被毛にバリカンを使用することは望ましくない。犬の本来の線を高めるようなトリミングは、できるかぎり自然に見えるようにすべきである。

### ■サイズ

理想的な体高は成犬の牝で 38.1cm、成犬の牝で 35.6cm である。体高はこれより 1.25cm 上下しても良い。体高が牝で 39.4cm、牝で 36.8cm を上回る場合は失格となる。牝で 36.8cm、牝で 34.3cm を下回る場合、ペナルティーが課される。

### ■失格

- ・体 高：牝 39.4cm を越えるもの。
- 牝 36.8cm を越えるもの。